

## 専大校友を訪ねて

華やかな歌舞伎の舞台裏で床山として働く

今村 史 さん(平10文)



「髪結いの職人になりたい」

そんな思いで、歌舞伎舞台のとこ床やま山部屋で働き始めて6年。華やかな舞台の裏で日々、結髪に励む。役柄に応じてさまざまな髪型にかつらを結い上げる。仕事はそれだけではない。俳優の楽屋に出向き、かつらの掛けはずし、注文にあわせての調整、結い直し)、なでつけ)、保管など多岐にわたる。結い上げる時には俳優の体形、頭の形、衣裳などを念頭に置きながら、舞台全体との調和を大事にする。

「経験はもちろんのこと、幅広い知識や感性を養い、体力もないと出来ない仕事だと思います」

専大松戸高から文学部国文学科(現・日本語日本文学科)へ。近松門左衛門などの作品を学びたいと板坂則子ゼミに入った。ゼミでは歌舞伎や文楽などを鑑賞し、アルバイトでは劇場の場内案内や大道具を体験。舞台の表と裏の仕事を知ること「裏方の仕事に強くひかれていきました」。

就職活動ではマスコミ志望として活動したが、結局「好きな仕事に就くのが一番」と、歌舞伎界では唯一の女形専門の床山である光峯床山に入社。社長である親方や先輩の下で見習いとして基礎を学び、今では中堅として修行を続ける。大部屋俳優をはじめ、時には有名な幹部俳優を担当することもある。

9月の仕事は、新橋演舞場での『西太后』(藤間紫主演)の舞台。公開中の映画『娘道成寺～蛇炎の恋』ではスタッフとして参加した。「主演の中村福助さんは、歌舞伎の舞台で担当させてもらったことがあります。ある時、『うまくなったね』と褒めていただいて。役者さんに喜んでいただくことで、やりがいを感じますね」。

ひと月の歌舞伎興行が終わるとすぐ翌月興行のけいこが始まる。「休日は月に一日あるかないか。私の場合、趣味を仕事にしましたから、苦にはなりません」と笑顔を見せた。

【ニュース専修2004年9月号9面】